



校内研究だより

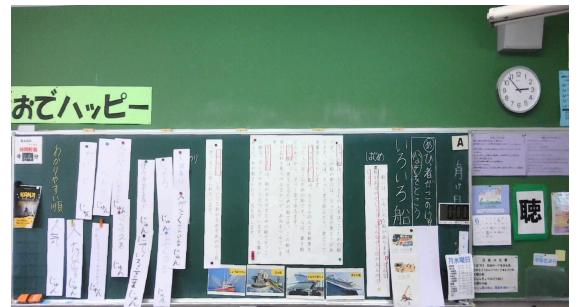
第3学年 向井級 研究授業

7月22日発行

1 これまでの授業づくりから

児童が叙述を基に根拠を持って説明する力や、「なぜこの順番か」という問いを自分事化する姿勢の育成に課題がありました。そこで学年団では、独自に再構成した教材や「〇〇順」という短冊画用紙を活用し、個人の考えをグループで深める手立てを検討しました。

事前授業では導入の答え合わせで疑問を引き出せた一方、グループでの話し合いの停滞や意見の偏りが課題となりました。そのため、教師の事前の見取りや意見の分類、時間配分の見直しを行い、児童自らが「身近で分かりやすい順」と納得して本時のまとめから次の単元へ繋がれるよう、指導案を改善しました。



2 研究授業や協議から学んだこと

成果と協議会での話題 参観の視点である「問いの自分事化」において、導入のクイズ形式や「なぜ？」を生む仕掛けが児童の意欲を引き出し、粘り強い思考につながった点が成果として挙げられました。授業者による「全員の意見を大切に」する姿や「寄り添う声かけ」、文章を見直しさせる意図的な支援のあり方から多くを学びました。

課題と指導者からの学び 協議会では「叙述をどこまで深めさせるか」や『〇〇順』を提示した意図が議論となりました。指導者からは、単にキャッチフレーズを決めるだけでなく「理由(自分の考え)」をしっかりと伝えるプロセスが話し合いをより活発にし、本時の目標達成につながると助言をいただきました。

